

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0792530040		
法人名	社会福祉法人 心愛会		
事業所名	ハーモニー猪苗代 認知症対応型共同生活介護1丁目		
所在地	福島県耶麻郡猪苗代町字城南131番地1		
自己評価作成日	平成29年9月20日	評価結果市町村受理日	平成30年3月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/07/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島福祉サービス振興会		
所在地	〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3		
訪問調査日	平成29年10月31日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

2ユニット併設のグループホームで昨年度までは職員を割振りし、各ユニット単位で動きが出来るように配置してきたが、今年度は入所者17名に対して職員全員がお客様の情報を共有するために、申し送りの方法を検討・実施し、一人一人のお客様が職員を信頼し、安心して誰にでも相談できるように取り組んでいます。看取りを導入して3年目となり、本人や家族が安心して生活し、終の棲家としての役割を果たせるように要望を聞き入れ、修正しながら情報共有に努めています。これらの取り組みが確認できるように申し送り、記録についての勉強会を行っています。

1. 運営推進会議・避難訓練・事業所行事などに地域の区長・地域ボランティア・近所の方々の参加があり、事業所運営に協力的である。
2. 同一施設内に小規模多機能型事業所も運営しており、各施設の機能を活かし、アクティビティーも一緒に行うなどして、利用者同士の交流等を円滑に行い、効果的なサービス支援を行っている。
3. 法人のバックアップ体制があり、マニュアルの作成や見直しが適切に行われている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念を事業所内に提示し、唱和は時間のある時のみ行っている。事業所独自の理念は職員間で話し合いの下策定したが、実践に繋がっているかは実感できていない。	地域により密着した活動をめざし、送り時の唱和や会議を通じて理念の再確認で共有を図っている。利用者がこれまで培ってきた地域社会との関係を継続しながら一人ひとりの思いに沿った生活が出来るよう職員は笑顔で支援し、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、地域行事にも参加している。又行政の行事にも積極的に参加できるようにしている。事業所での行事に関しては町内の回覧板での案内やポスティングにより参加して頂けるように努めている。	町内会に加入し、事業所行事(夏祭り・コンサート・新そば祭り・お茶会等)は地域に回覧してもらい、地域からの参加が得られている。また、利用者と一緒に地域行事(夏祭り・敬老会・文化祭・花火大会等)にも参加し、双方向の交流が行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	相談に来られた家族や地域の方には、施設の概要や、認知症に対する理解や支援の方法の説明を行ってはいるが、施設から積極的に地域の方に対する勉強会は開催していない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	1回/2ヶ月運営推進会議を開催し、その都度お客様の利用状況や入退所、入院、事故等の報告や開催した行事の様子を写真を使用しながら報告している。会議メンバーから頂いた助言は施設の運営に活かしているが、職員間での共有までには至っていない。	運営推進会議は定期的に開催されており、委員から積極的に意見・提言がなされ、それらを受け、サービス向上に活かしている。また、委員が地域交流のパイプ役となり、事業所が地域の社会資源(認知症カフェの開催等)として機能するよう中核的な役割を果たしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	所長、管理者は毎月発行の施設広報を家族に届けたり、行事担当職員が行事案内を行いお誘いしたりして話の出来る機会を持つように努めている。町内の介護支援専門員の勉強会にも参加し連携を図っている。	運営推進会議に行政からも参加があり、事業所の実情を伝えている。毎月、広報誌を届けたり、事業所行事を案内したり、訪問して運営上の疑問点を相談する等、町の担当者と協力関係を築きながら取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全ての職員が委員会に所属し、会議や勉強会を行い意識づけを行う事で、身体拘束に繋がらないようにしている。	身体拘束予防委員会が設置され、具体的な事例の検討が行われるとともに、職員会議、事業所内研修を通じ、言葉による抑制も含め身体拘束についての正しい理解を深め、認識の共有を図り、身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。日中、玄関の施錠はされていない。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人の「権利・擁護指針」を職員の目の届く所に掲示し、職員の意識向上に努めているが、職員全員が研修会に参加する事が難しく学ぶ機会を持つことが難しい。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ご家族や地域の方から相談された際に十分な説明が行える自信はないので、研修会などに参加し勉強できればと思っているがなかなか実現しない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時・解約時にはご本人やご家族に分かりやすく説明できるように心がけている。疑問点や不安な事がある場合は納得できるように理解できる話し方で説明するように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会の開催時や面会の際にご家族様と話す機会を作り意見を頂いている。頂いた意見は職員会議や申し送り、職員間の連絡ノートを活用して報告し、改善できるように努めている。法人で「お客様アンケート」を実施している。	管理者・職員とも話し易い雰囲気があり、面会時・運営推進会議参加時・事業所からの連絡時等にも家族の意見や要望を聞き取り、運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年1回本部役員との面談を行い職員が役員と意見交換を出来るようになっている。	職員の意見や要望は職員会議・申し送り・個別相談等で把握しており、管理者が集約し具体的改善に活かされている。法人代表との個別面談等もあり、連携も密に行われ運営に関する意見・要望等も反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の資格取得に向けた支援を行い、資格を活かせるような労働環境作りをしている。家庭環境に応じてその職員にあった労働環境で職場環境を整えている。代表者が勤務状況を把握しているかは疑問である。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での各研修が年間計画で組み込まれており、職員が研修を受けられる環境はある。外部研修に関しても各職員に合せ希望に沿った研修参加を推進している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修の機会を通して交流する機会を作り、学びを活かし事業所のサービス向上に活かす事が出来るようにしている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントをする中でご本人の思いや不安をお聞きし、話易く安心できる雰囲気づくり・関係づくりに努めている。又職員間での情報の共有を図り、本人の声をくみ取り不安の解消に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様からの要望や、困っている事を聞いて、信頼関係が築け、コミュニケーションが図れるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	実態調査時や他の居宅や施設からの引き継ぎの際にはご本人・家族のニーズを把握し、必要な支援を検討し、気持ちや要望を受け止めるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事の盛り付けや、片づけ、食器洗い、掃除、洗濯物たたみなど出来る範囲で行って頂くことで、一人一人が役割を持って生活できるように支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご利用者様、ご家族様、職員が一体となって「その人らしさ」を大切にされた支援方法を検討し、共に支えていく関係を保てるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	かかりつけ医受診や地域の行事参加、外出、職員との買物などで外出の機会を作っている。又、面会に来られた家族と一緒に外食をされて来たり、ご自宅にもどられたりの援助を行ってはいるが馴染みの関係の把握は難しい。	家族や友人・知人等の面会の際は居室や居間でゆっくり寛いでもらい、居心地のいい環境づくりをしている。また、家族の協力を得ながら自宅や外食・墓参り・馴染みの理美容室に出かける等、関係が途切れないよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合うお客様同士の良好な関係が築けるように席を検討している。又、孤立しがちなお客様には職員が個別に対応し、疎外感を与えないように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	問い合わせや相談を受けた際には、出来る限り対応するように努めている。又行事などへの支援を依頼する事もある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	担当職員やケアマネ、計画作成担当、看護師がそれぞれ本人の希望や意向に関わりの中でくみ取れるようにしている。本人から意向の確認が出来ない場合はご家族より協力を得て、本人の立場に立って検討している。	日常生活支援の中から利用者の思いや希望を把握している。また、意思表示の出来ない人には、家族からの情報をもとに利用者の表情や仕草から思いや意向を汲み取っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サービス導入前に本人、家族、他機関から情報を収集し、生活歴や趣味、生活パターン等に配慮して今までの生活が送れるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎月GHミーティングを行い、身体状況やケアの統一に情報共有に努めている。又身体状況に変化があった時にはその都度申し送りを行い情報の共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護保険更新時や状態に変化があった時には随時担当者会議を開催、本人、家族、介護職員、計画作成が意見を出し合い、今の状態に合わせた介護計画を作成するように努めているが、反映されていない事もある。	利用者・家族の思い、利用者の身体状況の変化、職員の気付き、モニタリング結果に基づき、現状に即した介護計画が作成されている。しかし、介護計画の援助内容に即した個別記録が明確でなかった。	介護計画の援助内容に沿った記録に基づきモニタリングを行い計画変更等につなげる事が基本となるため、個別記録が漏れないよう記載欄等について検討して欲しい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の日常生活記録に1日の生活の様子を記録している。状況変化のある時には会議や申し送りノートを活用し情報の共有に努めているが、直ぐに計画の見直しや実現に反映される事が少ない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の要望に合わせて外出への支援を行っている。その方が本当に必要な支援を把握し職員が対応できることは、出来るだけ行う様に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	関係機関や本人との繋がりのあったご近所の方や友人、親戚の方等との情報の共有に努め、面会のあった際には、そのかたとのゆっくりと過ごす時間を大切にするため面会場所の考慮やお茶の提供など工夫をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医受診は家族対応で行って頂いているが、その際には施設での状態が主治医に分かりやすく伝えるように情報提供用紙を記載し、家族に持参して頂いている。家族対応が難しい場合は施設対応や往診依頼を取り入れている。	利用者・家族の希望するかかりつけ医の受診を支援している。受診は、家族対応を基本としているが、利用者の状態によっては、職員が同行する場合もある。受診前に情報提供用紙を家族に渡し、受診結果については、家族より報告を受ける等、情報共有されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調や状態に変化があった時には看護師に報告し、受診の必要性があった場合は、ご家族や担当医に連絡を取っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には看護サマリーの提供を行い医療機関との連携に努めている。退院が近づいた際には病院の相談員や看護師より状態を確認し、必要に応じて担当職員又は計画作成担当が病院を訪問し状態を把握するようにしている。退院後のサービスについても相談できるように関係作りを努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「看取り」導入により主治医、管理者、計画作成担当、看護師、介護職員間での状態報告とケアプラン作成を行い、担当者会議を行っている。本人が安心できる「看取りケア」に努め、そのつどの勉強会も行っている。又、ご家族に対しても納得した「看取り」が出来るように要望を聞き入れ情報共有に努めている。	「看取りに関する指針」が策定されており、事業所は医療連携体制加算を取っていないが、医師の判断後、利用者・家族・事業所等の関係者が話し合いながら、看取り支援を行っている。また、終末期に向けた対応は研修会を通して、全職員が知識を深め、看取りの実践に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応訓練は施設内研修に位置づけている。緊急連絡網を使用しての連絡方法も実践出来ている。急変時にはAEDを使用し心肺蘇生ができる様にはなっている。急変や事故発生時の対応しついで訓練は出来ていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な避難訓練や災害時の対応について計画し、色々な場面を想定した避難訓練を、地域の方、行政の職員、消防署職員と共に行っている。	消防計画が策定されており、年2回の総合防災訓練以外には噴火想定訓練等、毎月、種々なケースを想定した勉強会を実施している。防災訓練は、地元の消防団員や地域の方々の協力を得て行っている。災害時の備蓄品は、パン、缶詰、防災頭巾等が準備されている。	火災(夜間想定を含む)・風水害・地震等様々な災害を想定した防災訓練について年間計画を策定し、職員全員が昼夜を問わず利用者を避難させられるよう数多く訓練して欲しい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	普段から職員一人一人が意識を持てるように外部研修や法人内研修に参加している。	理念である利用者を尊重しながら、尊厳を損なわない対応を心掛けており、そのために「コミュニケーション8ヶ条」、「毎日の目標としての31項目」を策定し、日々、職員間で唱和している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	施設内にコミュニケーション8か条を掲示し、コミュニケーションをとる際の指標とし、一方的な支援ではなくご本人の希望・想いを組みとれよう職員間で共有している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日のスケジュールにこだわらずに、その日の体調や気分に合わせて、本人の希望に添った支援をおこなうようにし、無理強いない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎月訪問理容を利用し、定期的に散髪や髪染めが出来るような機会を設けている。服は出来るだけ自分で選んで頂く事もあるが、職員が選ぶことが多い。化粧品が無くなった際には家族に連絡し持参して頂いたり、本人の意向を聞いて職員が購入してくる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	日頃お客様にごしらえや盛り付けなどの簡単な調理を積極的に行って頂いている。誕生日や行事の際には手作りのおやつや行事食を提供し、食を通して食べる楽しさや四季を感じる工夫をしている。	法人の栄養士が作成した食事のメニューは、季節感が感じられるよう工夫しながら提供している。利用者の嗜好は、日常の会話や家族からの情報得て行事食等に活かし、利用者の楽しみになっている。利用者には、ごしらえや盛り付け、下膳等に参加してもらい、利用者と職員と一緒にテーブルを囲み、食事が楽しくなるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人に合った食事形態と好き嫌いを把握し食事を提供している。食事量もその人に合わせて量の調整を行っている。食事・水分量を記録し把握する事で健康管理に繋がるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後実施出来ている。ご本人の能力に合わせ必要な介助を行っているが一人一人に合った万遍ないケアは行うのが難しい。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的なトイレの声かけを行い、出来るだけオムツやパッドを使用せずにトイレで排泄できるように心がけている。変化があった場合には職員間で情報の共有をしている。又その方の能力に応じてのズボンの上げ下げなどの自立に向けた声かけを行っている。	トイレでの排泄を基本に支援しており、排泄パターンを把握し、一人ひとりに合わせた対応を行っている。声掛けは、利用者の羞恥心や不安感に考慮し行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事やおやつなどの定時での水分提供の時間の他に本人からの訴え時や、水分摂取量の状況を把握しながら、随時水分の提供を行っている。また施設内にあるいたり、身体を動かすことで排便を促し、便秘解消に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の予定はあるが、ご本人の状態や希望に添った入浴を実施している。脱衣場では音楽を流し風呂に入りながら音楽を聴く楽しみが味わえるようにしている。	入浴は利用者の習慣や希望に沿って支援している。音楽を聴き、職員との会話を楽しみながら入浴が出来るよう支援している。入浴を拒否される利用者には時間を変更したり、職員を代えながら支援している。また、浴槽は、檜風呂が用意されており、季節により菖蒲湯やゆず湯等を取り入れている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の体調や本人の生活習慣に合せ、居室で休まれる方や、テレビを見られる方も居る。就寝時間は特に決めずに本人のペースに合わせて休んで頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の名前や効果については個人の処方箋に記載されており、いつでも確認できるようになっている。内服薬の変更・注意点は看護師より介護職員に周知している。また服薬時は飲込むまで確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割づくりとして洗濯物たたみ、食器洗い、下膳その他自宅で過ごされていた時と同じような事を行って頂いている。外庭の畑に野菜を作り、草むしりや収穫を楽しんでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	年間行事に基づいて外出の機会を設けているが、その日の希望に沿った外出支援は行っていない。時折家族の協力を貰いながら外出や買い物などにでかけられ、親類の集まりやお盆の外出などにもでかけられている。	年間の行事予定に沿って外出の機会を設け花見や紅葉ドライブ、あじさい見学等に出かけている。また、地域の行事にも積極的に参加し、地域との交流を図っている。家族の協力を得て買い物や墓参り、自宅への外泊等に出かけ利用者の気分転換を図るとともに楽しみにもなっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出の際希望の物がある際には、施設立替で買い物の支援を行っている。希望がある場合や家族の理解が得られた場合には小額のお金をご自分で管理して頂いている。また事務所で管理しているお客様もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族や知人に連絡を取りたいと希望された時には事務所の電話を使用頂き、自由に連絡が取れる様にしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	行事の際に撮影した写真やお客様と一緒に作成した季節の壁紙などを飾り、季節を感じる工夫をしている。季節の花を飾り明るい雰囲気空間が作れるように努めている。	居心地の良い共用空間作りに配慮し、利用者が不快と感じる音・光・色・温湿度等の排除に努めている。居間や廊下には利用者と職員が共同で作成した季節を感じる手芸品や貼り絵、行事の写真が飾られている。居間では、利用者各自の居場所があり、テレビや新聞を見たり、利用者同士で会話を楽しんでいる姿がみられた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	小規模ホールや和室など開いている空間を利用し面会の場所を確保しているが、プライバシーを確保できるスペースは用意出来ない。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている	ご本人が使い慣れた物を持って来て頂いたり落着ける環境を整えられるようにご家族に協力して頂いている。	居室には、利用者と家族とが相談の上、自宅で使い慣れた馴染みのタンスや衣装ケース、テレビ、冷蔵庫、仏壇等が持ち込まれており、壁には家族の写真や思い出のある作品が飾られていて、居心地の良い、落ち着いた生活環境が整えられている。居室の清掃やリネン交換は、障害者施設に委託されており、定期的に行われ、衛生が保たれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物全体がバリアフリーになっており、危険の無いように廊下には手すりが設置されている。障害物が歩行の邪魔にならないように工夫し、自立した生活が送れるようにしている。		